

### (3)「多角的な視点からの課題抽出」への対応

#### 【環境教育ミーティング in 久住高原報告】

環境教育ミーティング in 久住高原	
目的	今回の環境教育ミーティングの「持続可能なふるさとづくり」というテーマは、当協会においても、大事にしたいキーワードであり、このテーマに基づいて意見交換をしたり、様々な考え方に触れることは、これからのプログラム作りにおいても有用である。また、様々な分野で活躍する人達と交流を深め、当協会の活動へのバックアップの幅を広げることも図る
参加者	環境教育・地域づくりに興味のある社会人・大学生 130名
日程	平成21年 3月7日・8日
場所	大分県竹田市 国民宿舎「久住高原荘」
主催	九州環境教育ミーティング実行委員会
内容	<p>全体会①:「持続可能なふるさとづくりに向けて」 九州環境教育ミーティング実行委員会 代表 杉浦嘉雄 氏</p> <p>分科会:「農業とグリーンツーリズム ～持続可能な運営をグリーンツーリズム体験しながら考えよう～」 コーディネーター 甲斐広見 氏</p> <p>全体会②:まとめのフォーラム+意見交換会 コーディネーター 山口久臣 氏</p>
総評	<p>第3分科会に参加し、農家民泊「森のぶらんこ」にて、竹細工作りや、郷土料理作りなどの体験を行った。美味しい料理や、お母さんとの楽しい会話など民泊が本来持つ楽しさを確認することが出来た。反面、安全管理（セーフティー・トーク、使用する道具のインフォメーションなど）については、やや不足が感じられた。分科会での体験を基に、「持続可能なグリーンツーリズム」についての意見交換が行われた。ポイントをまとめると以下となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 舞台(自然環境、文化、歴史)の保護</li> <li>2. 提供する側のモチベーション(提供する人が楽しいと思える環境)</li> <li>3. 収入があること(ボランティアだけでは続かない)</li> <li>4. 伝える人(インストラクターなど)がいること</li> </ol> <p>これからは体験プログラムの開発においても、非常に重要なポイントであると感じた。同時にどんなプログラムであっても、そこに関わる「人」が大事であるとの感触を得た。</p>

【環境教育ミーティング in 久住高原風景】



郷土料理づくり体験



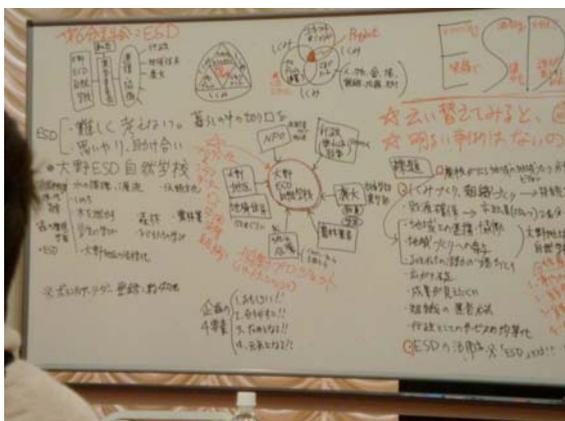
郷土料理



竹細工作り



里山フィールドワーク



分科会意見交換会



分科会意見交換会の様子

## 【既存の民泊プログラムに関するヒアリング調査】

既存の民泊プログラムに関するヒアリング調査	
目的	スタートから5年を経過した民泊事業は、当地域の特性を生かした体験プログラムとして、評価を得てきた。今では登録民家も増え、今後もこの事業を広めていきたいと考えている。そこで、現在行われている、各民家における体験プログラムを調査し、課題点や今後の可能性を洗い出したい。
対象	昨年度の入入れが多かった民泊民家30軒対象 主な職業: 漁業、農業、畜産、その他(自営業など)
日程	平成21年 3月1日～31日
調査方法	下記フォーマットを活用した、当協会職員との面談によるヒアリング方式
総評	<p>○各民家共通の主なプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アジ釣り ・郷土料理作り ・お菓子作り ・野菜の収穫 ・島内の散策</li> </ul> <p>○その他のプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業体験 ・クラフト ・茶道 ・陶芸体験 ・かまぼこ作り ・牛の世話等</li> </ul> <p>○主な課題点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雨天時の対応</li> <li>・体験者の安全管理(既往症、食事アレルギーへの対応)</li> <li>・プログラムに必要な、道具の確保</li> <li>・他の民家とのバランス(食事、プログラム内容など)</li> </ul> <p>○課題点に対する対処</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な分野の専門家を招いての研修会の実施(クラフト、野外活動など)</li> <li>・救急救命講習の定期的な実施</li> <li>・道具の貸し出しシステムの構築(釣竿、ライフジャケット、工作道具など)</li> <li>・他地域への視察研修(非常に要望が多い)</li> <li>・民家同士の横のつながりの構築</li> </ul> <p>○考察</p> <p>今回のヒアリングでもっとも多くの方が、他地域への視察研修をしたいとの意見であった。離島である以上、外部との接触が少ないため、他地域を知ることで、自らを確認したいとの意欲が感じられた。また、軒数が増えたことで、民家同士のつながりが薄くなっていることへの危惧も感じられた。プログラムに関しては、雨天時の対応が課題として挙げられた。島の特徴を損なわない、屋内で出来るプログラムの開発が必要であると感じた。</p>

\*資料 ヒアリングシート

民泊体験プログラムについて

月 日 ( ) 担当( )

民泊名		場所	時期	準備物など
体験プログラム				
体験プログラム				
体験プログラム				
雨天時の体験プログラム				
雨天時の体験プログラム				
体験プログラムで困っていること				
こんな事をやってみたい!				
その他、なんでも				